

廃木材よ…よみがえれ！！

廃木材には「マテリアルリサイクル」により与えられる使命がまだあります。



廃木材の利活用、このままでいいのでしょうか？

現在、廃木材の利活用について議論される際に、常に話題の中心になるのがバイオマス発電を中心とした「エネルギー利用」です。再利用することが出来ない廃棄物をエネルギーに還元することは非常に有効な活用法であると言えます。

しかし、「エネルギー利用」する前に、今一度考え直して下さい。

その廃木材は「マテリアルリサイクル」が出来るのではないのでしょうか？私達東京ボードグループは皆様とともに「マテリアルリサイクル」の手助けをさせていただきます。そして共にCO₂削減を図り、地球環境をより良いものへと改善していきましょう！木々に永遠の命を与えたい…。それが東京ボードグループの使命です！！



東京ボード工業株式会社
本社 〒136-0082 東京都江東区新木場2-11-1 TEL:03-3522-4138 FAX:03-3522-4137
新木場工場 〒136-0082 東京都江東区新木場2-12-5 TEL:03-3522-1524 FAX:03-3522-1525
埼玉工場 〒340-0835 埼玉県八潮市浮塚100番地 TEL:048-996-4541 FAX:048-996-4562
横浜エコロジー株式会社
〒236-0003 神奈川県横浜市金沢区幸浦1-4-2 TEL:045-778-1153 FAX:045-778-1154
ティー・ビー・ロジスティクス株式会社
〒340-0835 埼玉県八潮市浮塚100番地 TEL:048-994-1311 FAX:048-994-1315
TB関西物流株式会社
〒630-8452 奈良県奈良市北之庄西町1-6-11 TEL:0742-50-6222 FAX:0742-50-6667

私達は
地球温暖化防止に
全力で取り組みます

「とうきょうさんぱい」

通巻第四二八号

令和八年五月一日

発行人 鈴木宏和

発行 一般社団法人東京都産業資源循環協会

とうきょう さんぱい

第43巻第2号 通巻第428号
428
令和8年5月1日発行

リチウムイオン電池火災緊急対策事業などを予算化 東京都 令和8年度予算

- 一都三県建設混合廃棄物意見交換会
パラダイムシフトに備える建廃業界のDX推進
- 多摩支部だより 施設見学会 [ジャパンウエイスト(株)横浜事業所]
- 医療廃棄物委員会
施設見学会 [JR 東日本 TAKANAWA GATEWAY CITY 内 環境施設]





AFUSO リジェネラティブな未来へ

■廃棄物(産廃・一廃)の再資源化率 100%

- ・廃棄物から化石燃料代替品のRPF(固形燃料)やフラフなどを製造
- ・廃棄物のマテリアルリサイクル推進

■船舶輸送によるモーダルシフト

- ・プライベートバースを設置して船舶輸送を推進

有明興業株式会社
AFUSO KOUGYO CO.,LTD.

産廃エキスパート
環境産業的理問有認定制度
優良認定業者

本社・全工場
ISO14001 認証取得
ISO27001 認証取得

- 若洲工場：東京都江東区若洲 2-8-25
- リサイクルポート：東京都江東区若洲 2-6-17
- 京浜島工場：東京都大田区京浜島 3-3-14
- 市原工場：千葉県市原市玉前西 2-8-1
- 八丈島工場：東京都八丈島八丈町大敷町 8316-1

本社：〒136-0083 東京都江東区若洲 2-8-25 TEL：03-3522-1911 FAX/03-3522-1919 <https://www.aknet.co.jp/>

環境負荷を低減し、よりクリーンな社会へ

★わたしたちのとりくみ

- 資源を再生する
- 省エネを実行する
- 省燃費で運転する
- 会社周辺の環境を整備する
- グリーン購入を心がける

etc

★事業内容

- 産廃廃棄物処分業(コンクリート等 破碎 2,040t/日)
- 産廃廃棄物収集運搬業(保管機働えを含む)
- 保管機働(汚泥、炭灰等、鉄さい)
- 機働(上記以外に炭灰、炭プラ、金屑くず、ガラス、コンクリート、陶磁器くず、はいじん、がれき類)
- 陸上運搬はもちろん海上運搬もー
- 汚染土壌の陸上海上輸送 ●再生砕石、再生砂散流

日栄産業株式会社
～リサイクルポートの活用で資源の再生利用を促進～

〒143-0003 東京都大田区京浜島3丁目5番2号
TEL03-3790-7400 <http://nichiei-sangyo.jp>

TCOM
TEL03-3790-7400
TEL03-3790-7400
ISO14001 認証取得
ISO9001 認証取得

収集運搬業 6-22-8-0022
中間処理業 6-22-0027

株式会社
京葉興業
URL <https://www.keiyokogyo.co.jp>

快適な環境づくりと
自然との共生をめざして

京葉興業グループ
処理方法

- 中和油水分離
- 発酵整菌
- 乾燥
- 生物処理
- 脱水
- 破碎分離
- 混練固化
- 中和油水分離
- 発酵整菌
- 破碎
- 焼却
- 凝集
- 圧縮圧縮梱包

JQA-EM786 / ISO14001
認証範囲はHPでご確認ください。

< 京葉興業グループ > 実績と信頼のもと 多様なニーズにお応えします

株式会社 京葉興業 〒133-0061 東京都江戸川区篠崎町1丁目2番6号 Tel03-3678-0111 Fax03-3670-9140
三和清運 株式会社 〒133-0061 東京都江戸川区篠崎町3丁目2番6号 Tel03-3679-8555 Fax03-3679-3855
株式会社 ビー・アル・クリエイト 〒289-0511 千葉県旭市鍋木3484番地1 Tel0479-68-4808 Fax0479-68-4809

都市更新を下支えする 企業を目指して。



地球を守る 確かな技術

城南島第二工場

- 産業廃棄物処理施設
破碎処理施設・脱水処理施設・造粒固化処理施設
- 汚染土壌処理施設

e Synergy System

SEIYU
成友興業株式会社

城南島第二工場

城南島第二事業所 東京都大田区城南島 3-2-11 TEL : 03-3799-8111 FAX : 03-3799-7788

CONTENTS

リチウムイオン電池火災緊急対策事業などを予算化 東京都 令和8年度予算	2
一都三県建設混合廃棄物意見交換会 「パラダイムシフトに備える建廃業界のDX推進」を開催	4
多摩支部だより 多摩支部 施設見学会 ジャパンウエイスト株式会社 横浜事業所を見学	8
医療廃棄物委員会 施設見学会 東日本旅客鉄道株式会社 TAKANAWA GATEWAY CITY 内 環境施設	10
新入会員紹介 [賛助会員] エヌ・ビー・シー協同組合	7
人材確保プロジェクト 外国人材受入れに関するセミナーを開催	12
青年部だより 第13回全国大会に参加/PVリサイクルセンターを見学	13
女性部だより 「JWNETの処分終了報告/最終処分終了報告の入力項目追加に 関する座談会」を開催	16
広告主募集	19
「産業資源循環情報」の原稿を募集しています	19
理事会・委員会報告 第105回理事会、法制度検討委員会、人材確保プロジェクト、建設廃棄物委員会〈建設汚泥・ 再生砕石分科会〉、青年部、女性部	20
協会の主な今後の日程	23
産業資源循環情報 [No.52] (株)市川環境エンジニアリング 循環型社会の実現に向けて	24
Tea Break インド旅行記③	25
事務局だより・編集後記	28
表紙の言葉	22
身近なヒヤリ・ハット事例 Part 201	29
全産連より案内 令和8年度 産業廃棄物処理実務者研修会 (前期開催日程)	30

一都三県建設混合廃棄物意見交換会

「パラダイムシフトに備える建廃業界のDX推進」を開催

建設廃棄物委員会（高橋潤 委員長）は、令和8年2月24日(火)、エッサム神田ホール1号館（千代田区神田鍛冶町）で、一都三県建設混合廃棄物意見交換会（埼玉県、千葉県、神奈川県、東京都の4協会で構成）「パラダイムシフトに備える建廃業界のDX推進」を開催しました。建設混合廃棄物処理業では、いまだアナログ作業が多く、生産性の低下や人員負担の増大につながっている現状があります。中でもマニフェスト作業におけるドライバーの手書き入力の不正確さ・不明瞭さ・未記入は、DX推進の大きな障害とされてきました。

この課題に対応するため、当会では長年にわたり、特殊品目名称の標準化・電子ツールの開発に取り組んでまいりました。このたび、「特殊品目名称の標準化」と「建設廃棄物Q&A」がまとまり、あわせて電子ツールの運用準備も整いましたので、その内容について建設廃棄物協同組合専務理事 谷口敏幸 様をお招きして、ご講演をいただく意見交換会を実施しましたので、その概要を報告します。（事務局長 竹内 高広）

I 開会の挨拶 当協会 鈴木宏和 会長



鈴木 会長

建廃処理のDX推進にあたっては、デジタル化の前提となる品目名が各社バラバラで、まずは品目名の統一から取り組まなければならないなど、大きな課題があった。そのため、一都三県の皆様にもご協力いただいて進めてきた「建廃NAVI」について、いよいよ完成に近づいていると聞いている。本日は、約4年間、一都三県のメンバーとともにこうした課題に取り組んでいただいた建廃協の谷口専務に講演をいただく。

II 谷口 専務理事の講演

1 迫りくるパラダイムシフト



谷口 氏

パラダイムシフトとは、「価値の転換」である。今後、サーキュラーエコノミー（以下「CE」と略す）というパラダイムシフトの波に乗らないと建廃業界は消えてしまうかもしれない。本業界では、トレーサビリティの電子化を迫られており、廃棄物の流れがリアルタイムに追って行けるようにはならなくてはならないからだ。

今後は、高度化法の大員認定により参入障壁が無くなり、大手業者が入ってく



会場風景

るかもしれない。これがパラダイムシフトによる脅威である。建廃業界は、努力して今の社会的インフラとしての地位を獲得した。特定の顧客を抱え込んで、ビジネスも安定させ、許可制という既得権益による参入障壁のお陰で安定取引が保障されてきた。しかし、これからは高度化法による大臣認定により、参入障壁を揺るがす事態が生じて来るかもしれない。

国は、CEを国策として本腰をいれてきている。既にEUはCEを徹底しており、選別解体を義務とし、バーズンは使うなど言っている。我が国でもCEはかなりのポテンシャルをもっている。経済・環境的ポテンシャルと相まって、社会経済へのインパクトは大きい。企業の環境対策がESG評価に影響し、投資会社はこれを重視すると言われている。

CEは、廃棄物処理業から資源循環業への転換を迫る存在だ。メーカー系の産業廃棄物処理会社は、廃棄物として入ってくるものが単一なのでやりやすい。今

後、建廃業界は処理業だけでは長続きしない。この流れに乗れない排出事業者は選ばれないだろう。CEを制度的に具体化したものが高度化法だと言われている。骨格は、資源循環、脱炭素、デジタル化であり、リアルタイムで廃棄物処理の履歴を追えないとなくなるとされている。原料が廃棄物由来のもので、資源循環の結果だといえるには履歴しかないからだ。いままでのトレーサビリティは、適正に処理したという視点でしかなかったが、これからはいつどこで発生して、どう中間処理してどう分かれてどこに行ったかがリアルタイムでわからなくてはならなくなる。

今後、企業評価は、ESGという指標でチェックされ特に資源循環に力点が置かれ、大手ゼネコンは、企業価値を上げるためESGを重視する。ESGに対応できない企業は銀行からリスク企業とみられるからだ。

建廃業の参入障壁は高度化法で緩むのか。収集運搬にも、大手運送業者が参入

してくるのではないかとわれ、トレーサビリティの電子化への対応企業の増加と共に、電子化の流れは強くなるのではないか。

実は、ゼネコンも廃棄物処理会社の脱炭素はそれほど重視しておらず、建廃処理業が資源循環証明企業になることに期待を寄せているらしい。トレーサビリティは電子化が必須となるが、そこで登場するのが「建廃 NAVI」である。

2 顧客価値の創造

これからは、資源循環をどう行ったかをリアルに見せてくれと言われる。そこへ行くには、業務のデジタル化が必須だ。「建廃 NAVI」は企業が DX 時代に生き残っていくための土台だ。電マニの作業証明書というアナログな存在は産廃処理業者の業務に無駄な労力を生んでいる。「建廃 NAVI」を導入すればこれらの無駄は無くなる。

他方で請求品目の呼称が排出事業者ごとにバラバラで無駄の原因になっている。作業のデジタル化のためにはアナログ情報の標準化が必要であり、この状況をなんとかしないといけないとして一都三県の DX 会議が立ち上がった。

完成までに時間がかかったのは、Q&A との整合性を図るためだった。Q & A とは何か。

トレーサビリティは説明責任を伴うものであり、そのために処理の仕方、分け方、品目区分を現場で説明できるよう解

説したもので、デジタル仕様のためいつでもどこでも見られるのが特徴だ。現場の監督と処理会社で処理対応に齟齬がないよう、これまで現場で起きた事例を中心にまとめている。

このように「建廃 NAVI」は、これまでアナログベースの業務を電子化し、残業時間削減、作業時間削減、属人化解消するツールであるが、ドライバーの標準化品名称の入力をスタートに、これまでの業務の仕組みを一気通貫の仕組みに変える。

また、J W N E T が推進している電子マニフェストの項目追加は、どのような廃棄物がどこでどのように処理され何になったかという一連の流れを判るようにするもので、大変な作業となるので AI 活用などによる今後の対応を考えておかなければならない。行政がトレーサビリティの電子化を進めたがっている理由の一つに監督コストの抑制がある。この流れについていける業者が残っていくと思われ建廃処理業のこれまでの適正処理という価値が更にバーゲン材の使用を抑制する資源循環価値がプラスされる形になっていく。その価値を市場・金融機関・排出事業者が評価する時代となる。

3 社内での推進 —2 軸の経営—

企業をひとつの評価軸で経営しないとものに 2 軸の経営がある。短期的に収益を上げながら中長期的に次のビジネスの種をまき育てていくというものだ。

このバランスをとるのが社長の仕事である。社長は、企業も絶えず脱皮・変身・成長（蛻変（ぜいへん））しなければならない。既存事業はこれからも会社の中心だと宣言しつつ、新規事業にも投資すると社員に宣言しなくてはならない。

「建廃 NAVI」は、これまで紙ベースで行っていたアナログ作業を電子化し、残業時間削減、作業時間削減、属人化を解消し、効率よく儲ける未来の収益軸に対応できるように組織にデジタル基盤を植え付け、トレーサビリティの電子化という資源循環社会にふさわしい「価値創造の創出」に企業を変革していくツールであるといえる。

東産協様、一都三県の皆様のおかげでここまで来たが、まだ道半ばであり皆様の叱咤激励をいただきながら頑張りたい。

III 質疑応答

「Q&A は建廃 NAVI とセットで使われていくのか」「品目を統一していただいたが、実際に電子マニフェストに入力するのは排出事業者であり、それがネックとならないか」などの質問があり、今後更に検討していくことになった。

IV 閉会の挨拶

一般社団法人埼玉県環境産業振興協会

亀井寿之 会長



亀井氏

本日の意見交換会に参加して、ゼネコンとの付き合いなど難しい問題が山積していると感じた。私たちもこのパラダイムシフトに乗り遅れることなく、皆様とともに歩んでいきたい。ありがとうございました。



新 入 会 員 紹 介

エヌ・ビー・シー協同組合

代表理事 梅木信吾

賛助会員 業種グループ：人材サービス

〒140-0002 東京都品川区東品川4-10-13 プライム東品川ビル2階
☎ 03 (3458) 0881

多摩支部 施設見学会 ジャパンウェイスト株式会社 横浜事業所 を見学

令和8年3月6日(金)、多摩支部(赤石賢治 支部長)の「多摩支部施設見学会」が行われました。21名が参加し神奈川県横浜市のジャパンウェイスト株式会社横浜事業所を見学しましたので、その概要をご報告します。(協会事務局)



施設見学会の参加者 ～ジャパンウェイスト(株)横浜工場入り口にて

はじめに、横浜事業所永井事業所長から施設概要の説明をいただきました。

○ ジャパンウェイストグループは、工場・研究所・大学などを主要取引先とし、特に少量多品種の化学系廃棄物、廃試薬、分析廃液、実験廃液を取り扱っている。全国15拠点・7工場のネットワークで処理体制を構築している。

○ 昨年10月に焼却炉が新設され、11月1日から営業運転をしているが、九州に偏っていた焼却処理拠点が、横浜に整備されることで、主に関東圏で発生する廃棄物を西日本(九州)まで運搬することなく処理することが可能となった。輸送距離短縮の効果も生まれ、CO₂削減にも寄与する体制となった。

- 横浜事業所の敷地面積は約1万7000平米。工場は2010年に竣工し、当初は①破碎(木くずをチップ化し、バイオマス発電用原料として供給)、②混練(汚泥を混練し、セメント原燃料を製造)、③中和混合(廃油を再生油としてリサイクル)の3処分区分で操業していた。
- 今回の焼却炉建設では、破碎と混練を廃止し、その跡地に焼却炉を建設した。焼却事業計画は2019年より検討をはじめ、2021年に横浜市環境影響評価条例、2023年に横浜市から設置許可を取得し、建設を開始した。
- 焼却炉は、ロータリーキルン+ストーカ炉を基本とし、固定床炉を併設している点が特徴。許可上の処理能力は1日90トン。24時間稼働体制で、焼却グループは4直3交代、1チーム3名、計12名で運転している。横浜事業所全体では71名体制で操業している。
- 焼却炉は、投入口が複数あり、固形物、薬品、感染性廃棄物、廃液、廃油など多様な廃棄物に対応可能。温度管理を廃油や廃アルカリの噴霧で行う設計となっており、運転中の制御にも廃棄物を活用している。
- 焼却熱を利用して発電し、その能力は最大で毎時1650kW、実際には1500kW/h前後の電力を生み出している。四大家族換算で約2000世帯分に相当する規模。発電電力のうち約500～600kW/hは場内利用し、余剰の約900～1000kW/hを活用して水素を製造する。これが本施設の最大の特徴。



ジャパンウェイスト(株)横浜工場

- 水素製造設備は、今年1月に試運転を行い、2月から販売を開始している。水素製造能力は150Nm³/h。時間当たりの水素製造能力150Nm³は、熱量換算で一般家庭の1か月分の都市ガス使用量に相当する。製造方式は、上水を純水化し、電気分解で水素と酸素に分離。圧縮して容器に充填し販売している。圧縮能力の関係でボンベ供給型の用途が中心。
- 廃棄物焼却で発電し、発電電力で水素製造、水素を顧客利用へ供給。利用先から廃棄物を回収し、再び発電に活用する循環モデルを目指している。
- 水素需要はまだ立ち上がり段階であり、現状では常時フル製造ではなく、未使用時は売電している。
- 横浜市との連携では、一般廃棄物処分許可の活用を含め、今後新たなスキーム構築を協議している。
- 横浜事業所として、焼却炉の受入量を段階的に拡大し、安定操業を継続する。水素製造量と販売先を今後さらに拡大し、事業化を本格化する予定。

施設見学会

～ 東日本旅客鉄道株式会社 TAKANAWA GATEWAY CITY 内 環境施設 ～

医療廃棄物委員会（五十嵐和代 委員長）は、令和 8 年 3 月 6 日（金）に港区高輪にある「東日本旅客鉄道株式会社 TAKANAWA GATEWAY CITY」の施設見学会を実施しました。見学会には 7 名が参加しました。（株式会社クレハ環境 麻生 典保 記）



参加者の皆さま

東日本旅客鉄道株式会社（以下「JR 東日本」）が開発している TAKANAWA GATEWAY CITY は、モビリティ、ヘルスケア、環境の 3 つのテーマに基づいた実験都市として開発されており、商業施設、オフィス、ホテルなどが複合的に存在している。特に、環境分野への取り組みを強く行い、水素エネルギーやバイオマス利用など、様々な試みが進行中である。その中の、環境関連施設として純水素燃料電池システム、バイオガス施設を見学した。

【純水素燃料電池システム】

高輪ゲートウェイ駅に設置されている純水素燃料電池システムの見学を行った。2050 年カーボンニュートラルに向けた JR 東日本の環境施策の一環として、街づくりにおける水素利活用のファーストトライアル（フェーズ 1）として行っていた。

設置されていたのは純水素型の燃料電池システムで、水素さえあれば他電源不要で自立運転でき、災害時利用も想定されている。発電能力は約 700W と小規模だが、まずは実装・運用の検証を目

的としているそうだ。多くのお客さまがご来訪されるという観点から、低圧での運用や安全性に配慮しているとのこと。

水素供給には通常のボンベではなく、水素吸蔵合金を用いたカセットを採用し、安全性と運搬性（資格者による運搬が必須でない扱い）を特徴としていた。カセットは 1 個約 18kg と重く重量が課題とのこと。燃料電池はブラザー工業、制御システムは日立製作所。

水素は現時点では街内の製造ではなく、千葉県で再生可能エネルギー由来として製造された水素を調達していた。発電した電力は、街内の自動走行モビリティの充電等に活用されている。将来的には、街内での水素製造、さらには街の基幹エネルギーとしての大規模利用を目指す方針だそうだ。

【バイオガス施設】

バイオガス施設は、街内の商業施設等から発生する食品廃棄物をビル地下の施設にて発酵させてメタンガスを生成し、ガスタンクを経てバイオガスボイラーの燃料として活用する仕組みとなっている。生成したガスは、バイオガスボイラーで燃焼し、ホテルの給湯等の加熱に利用している。熱の供給量は最大約 10% 程度を想定するが、現時点では街区の開発がまだ進行中で、最大値にはまだ届いていないとのこと。施設は JR 東日本の保有、運営は当協会会員の株式会社 JR 東日本環境アクセスが行っている。

食品廃棄物の処理能力は最大約 4t/日。食品廃棄物をホッパーに受入し、破袋・分別工程後スラリー化、調整槽からメタン発酵槽へ送り発酵させる。発酵槽は 3 基あり、約 20 日発酵させる。運用

見学の様子



上の課題は異物の混入物で、カトラリーや木片等が機械の負荷や分別難を起こしているとのこと。施設の安全面では、地震時の対応や換気等により、消防許可取得を含む対策が講じられていた。



TAKANAWA GATEWAY CITY の街の活動そのものが、環境負荷の低減や循環型社会の実現に先進的な取組を行い貢献している点が印象的でした。

今回の見学会にご協力を賜りました皆様には、改めまして心より感謝申し上げます。

人材確保プロジェクト主催

外国人材受入れに関するセミナーを開催

令和8年2月24日(火)、人材確保プロジェクト(二木玲子 リーダー)は、一般社団法人 国際連携推進協会 代表理事の茅本良夫氏ほか関係者をお招きし、会員向けオンラインセミナーを開催いたしました。[約50名参加]

(株式会社 東京クリアセンター 染谷 英明 記)

本セミナーは、深刻化する人材不足問題の解消策として期待される「育成就労制度」および「特定技能制度」について、過日の閣議決定により2027年4月から資源循環分野が対象に追加されることを受け、「外国人材の円滑な受入れについて」と題して実施したものです。



茅本 代表理事 (中央)

第1部では、「育成就労・特定技能制度の最新情報、法的留意点、受入れ後の教育・管理」をテーマに、同協会 企画・広報担当の塚口卓也氏よりご講演いただきました。旧制度「技能実習」から新制度「育成就労」へ移行する経緯をはじめ、「育成就労」と「特定技能」の制度概要および主な相違点、監理支援機関と登録支援機関の役割、企業側が負う法的責任、受入れに際しての留意事項などについて、具体的かつ分かりやすい解説がなされました。



塚口 氏

第2部では、「特定技能外国人の受入れ開始に向けた実務ポイントと注意点」をテーマに、センターポイント協同組合 代表理事の神由貴氏にご登壇いただきました。在留資格確認の確実な手法や、受入れ後



神 氏

の日本語教育に関する具体的な取組、長期的かつ安定的な雇用を実現するための体制整備など、実務に直結する内容についてご説明いただきました。

今回ご協力いただいた一般社団法人 国際連携推進協会は、多数の支援機関が加盟する上部団体であり、外国人労働者受入れ支援の分野において先導的な役割を担っておられます。支援機関ごとに得意とする国や支援体制に差異があることから、実績と信頼性を十分に見極めたいと選定することの重要性を改めて認識する機会となりました。

なお、特定技能評価試験の構成や評価項目など、現時点では未確定の事項も多いことから、より詳細な内容を取り上げる追加セミナーを4月21日(火)に開催する予定です。

本セミナーが、会員各位にとって外国人材の円滑な受入れと人材確保の一助となれば幸いです。

第13回全国大会に参加 PV リサイクルセンターを見学

青年部(畠山孟賛 部長)は、令和8年1月30日(金)~31日(土)の日程で、全国産業資源循環連合会青年部協議会 第13回全国大会 近畿大会 in 大阪への参加及び株式会社 浜田 京都 PV リサイクルセンターを見学しました。全国大会へは22名が参加しました。

(株式会社 環境管理センター 島田 周 記)



参加者一同

■ 全国大会に参加

1月30日、大阪・中之島に位置する「グランキューブ大阪」にて開催された「全国産業資源循環連合会青年部協議会 第13回全国大会 近畿大会 in 大阪」に参加いたしました。今回の全国大会は近畿ブロックでの開催で、テーマとして「近畿は一つ」。このメッセージには、近畿ブロックを中心に全国の仲間が連携を深め、業界全体の発展を目指そうという強

い思いが込められておりました。参加者は900名以上、全国大会では改めて私たちの業界が社会的に重要な役割を担っていることを認識し、業界の未来を考える機会となりました。その後の環境教育プログラムは、吉本新喜劇による特別公演。環境・廃棄物をテーマとした公演は、学びとともに、会場が一つとなって大きな笑いに包まれました。

◆ 再会、“絆”

昨秋 10 月、私たちは近畿ブロックの皆様と心温まる交流をさせていただきました。(とうきょうさんぱい 第 424 号 P22 掲載) 限られた時間の中でも、心に深く刻まれる素晴らしいひとときを過ごすことができた“仲間”が、今回の全国大会を開催されるということで、この日を心待ちにしておりました。

大阪の皆様は、溢れる笑顔とおもてなしの心で、まるで家族のように私たちを迎え入れてくださいました。その場面ひとつひとつに、温かさや熱意が感じられ、胸が熱くなる思いでした。そして、大阪と東京の青年部長がガッチリと握手を交わし再会を果たしたその瞬間、二人の絆、そして大阪と東京の絆がさらに深まるのを確かに感じ、とても感動しました。

今回の全国大会は、令和 9 年度に北陸ブロック福井県で開催されます。北陸の地でまた新たな絆を紡ぎ、全国の仲間と共に素晴らしい時間を共有できることを、今から楽しみにしています！

■ 株式会社浜田 京都 PV リサイクルセンターの見学

全国大会の翌日は、株式会社浜田 京都 PV リサイクルセンターにて、太陽光パネルのリサイクル工程を見学いたしました。

見学に際しまして、快くお受けいただき、当日のご案内もしていただきました。株式会社浜田 代表取締役社長 濱田篤介様には厚く御礼申し上げます。

◆ 太陽光パネルリサイクルについて

太陽光パネルは多くの素材から構成

されており、それぞれの素材を分けることができれば、有用な資源となりますが、現状は破碎して処理し埋立処分という状況です。多くの素材から構成されるため、処理には手間がかかります。日本における太陽光パネルリサイクル制度化も検討されており、株式会社浜田は審議会へオブザーバーとして参加しております。

◆ リサイクル工程

株式会社浜田のリサイクル工程

- ① ガラス・セル/EVA シートの分離
 - ② ガラス分析
 - ③ セル/EVA シート破碎・分級
- 以上、3つの工程で処理される。

① ガラス・セル/EVA シートの分離

太陽光パネルの外枠にあるアルミフレームとジャンクションボックスを外し、ホットナイフにてガラスとセル/EVA シートを分離します。ガラスは板状のまま回収できることが大きな利点です。

② ガラス分析

板状のまま回収したガラスは蛍光 X 線分析を行い、データはガラスに QR

コード印字されます。

③ セル/EVA シート破碎・分級

分析したセル/EVA シートを破碎機に投入し、振動篩によって2種類に分けられます。粒度の細かいものは精錬メーカーに売却され、銀や鉛などの金属を回収しています。

見学時にも実際に処理の工程を見せていただきました。太陽光パネルの頑丈な作りから、アルミフレームやジャンクションボックスが取りにくい様子や、ガラスとセル/EVA をきれいに分けることができる様子を目の前で見ることで、施設維持の大変さと適正な処理の重要性を感じ、参加者一同とても学びとなりました。



濱田社長（前列左から2人目）とともに



女性部勉強会

「JWNET の処分終了報告／最終処分終了報告の
入力項目追加に関する座談会」を開催

女性部(望月麻子 部長)は、令和8年2月25日(水)15時より、参加者女性部部員21名、オンライン55名にて女性部勉強会「JWNET の処分終了報告／最終処分終了報告の入力項目追加に関する座談会」を開催しました。

アドバイザーとして佐藤泉法律事務所 弁護士 佐藤泉 氏、(公財)日本産業廃棄物処理振興センター部長 鶴島亨 氏を迎え、2027年4月から処理業者による報告が義務化される電子マニフェスト再資源化等の情報入力についてお話しいただきました。

(株式会社 京葉興業 谷本 紫穂 記)



佐藤弁護士から省令改正等のご説明

制度改正の概要と目的

2025年4月22日の省令改正により、電子マニフェストにおける最終処分終了報告時の報告項目が追加されます。この改正は電子マニフェストのみが対象で、排出事業者が廃棄物の処理状況をより詳細に把握し、資源循環のさらなる促進を

目的として定められました。

中間処理業者および最終処理業者が報告義務を負い、処分フローごと(2次、3次委託先を含む)の「処分業者の名称と許可番号」「処分事業場の名称と所在地」「処分方法」「処分方法ごとの処分量」「処理後物の種類と量」が報告対象にな



佐藤 氏



鶴島 氏

ります。この追加報告事項に関して虚偽報告の罰則は適用されませんが、誠実に報告する義務があります。

なお、制度が施行される2027年4月1日から報告が必須となるため、処理業者はあらかじめ再資源化情報の収集および処理ルートごとのプロセス情報を準備し、排出事業者への情報提供体制を整備する必要があります。

具体的な報告方法とシステム対応

新しい報告要件により処理業者側の事務作業は増加しますが、電子マニフェストの「情報パターン」機能を活用することで効率化を図ることが可能になります。この機能では、廃棄物の処理ルートと各段階での処理量及び処理後物の量をあらかじめ割合で設定しておくことができ、報告時の入力を大幅に簡略化できます。

この量の算出方法は処理施設での実測を基本としますが、実際の業務では難しいこともあり、過去の処理実績や設計値からあらかじめ設定した割合で算出することが認められています。許容範囲は排出事業者に説明し納得してもらえる根拠が必要となりますので、過去1年程

グループワーク



度の平均値を参考にすることが推奨されます。

※廃棄物の量の単位が m^3 であっても、報告重量は係数によりキログラムに自動換算

特に混合廃棄物・複合廃棄物は2次マニフェストへの紐付けが複雑なため、推計による合理的按分と情報パターンの運用が業務簡略化の鍵となります。

また情報パターンが同じマニフェストは一括で報告可能であり、マニフェスト毎に数量が異なっても1つの画面で各マニフェストの受入量を入力できるよう



鶴島氏から電子マニフェスト項目追加のご説明

になっています。

ただし自社システムまたは何らかのASP（システムサービス提供事業者）を利用し、EDIシステム（電子データ交換システム）を介してJWNETに報告をしている場合、システム提供会社に事前の確認が必要となります。またパッケージシステムから独自のカスタマイズをされている場合には、改修対応にさらなる時間を要することが予想されますので、早急にシステム提供会社に相談することをお勧めします。

課題と対策

今回の勉強会で上がった課題は、2次マニフェスト以降の情報の把握と正確性の維持です。特に2次処理以降の処理が複数ある場合、その先でどこに何をどれだけ搬出しているのか漏れのない情報取得が必要となります。処理業者側が正確な情報取得のために定型の情報取得シート等を用意し、2次処理委託先に対して

定期的な情報提供を要請することが有効だと思います。またJWNETの仕様上、現在試験運用期間である入力データに「お試し機能」はありません。まずは報告データの精度が完全でなくても許容されると割り切り、積極的に情報を入力することから始めてみてください。

記者所感

この度の省令改正に対応する側は大変な苦勞が求められますが、2027年4月からの報告義務化に向けて実行可能な方法を見つけ、今すぐにでも準備を進める必要があると感じました。まずは二次処理委託先以降の情報収集体制の整備を軸として、システム、営業、処理部門それぞれのやるべきことを明確にすることから進めていきたいと思ひます。

また最後になりますが、お忙しい中ご協力賜りました佐藤弁護士、鶴島部長には心より御礼申し上げます。

広告主募集

広告主様を募集しています

本誌「とうきょうさんぱい」への広告掲載を希望される協会員様を募集します。

- 【条件】① 広告主は協会展員または賛助会員とします。
 ② B5版1ページ（コート紙）カラー表示となります。
 ③ 広告原稿はデータでご提供いただきます。

※ 広告料金、掲載期間、データ形式等その他詳細につきましては協会事務局までお問い合わせください。

お問合せ

一般社団法人 東京都産業資源循環協会事務局 担当：中澤
 〒101-0047 東京都千代田区内神田1-9-13 柿沼ビル7階
 TEL 03 (5283) 5455 E-mail: info@tasankyo.or.jp

「産業資源循環情報」の原稿を募集しています

東京都産業資源循環協会 広報委員会

本誌「とうきょうさんぱい」では『産業資源循環情報』として会員各社における資源循環等の取組に関する記事を掲載しています。

『産業資源循環情報』の原稿はすべての正会員、賛助会員の皆様を対象に募集しています。各社の事業をご紹介いただく良い機会です。ぜひ、ご応募ください。

掲載の方法：

- B5版1ページ、白黒での掲載となります。
- 本文の文字数は800字～1,000字以内（写真・図表は文字数により2点程度）
- 内容は産業廃棄物に係る資源循環に関することであれば結構です。
- 詳細は下記へお問合せください。

※機関誌のバックナンバーは協会ホームページからご覧いただけます。

お問合せ

協会事務局 担当： 中澤 e-mail: info@tosankyo.or.jp
 協会ホームページ: <https://tosankyo.or.jp> 電話: 03-5283-5455

理 事 会 ・ 委 員 会 報 告

第 105 回理事会

開催日時：3月11日(水) 15時25分～17時55分 場所：協会会議室

出席者：理事17名 / 監事2名

議題：

1. 決議事項

- (1) 新入会員の承認
- (2) 令和8年度事業計画及び予算
- (3) 練馬区災害廃棄物処理協定の締結
- (4) 事務局長の任免

2. 協議事項

- (1) 会費改定の検討
- (2) 令和8年度全国大会・国内処理施設見学研修会
- (3) 令和9年5月定時総会及び令和10年1月賀詞交歓会の会場

3. 報告事項

- (1) 全国産業資源循環連合会会長表彰の選考
- (2) 区市における災害廃棄物処理対策の検討状況
- (3) 令和8年度東京都予算要望への回答
- (4) 月次会計報告及びマニフェスト販売状況
- (5) 産業廃棄物処理業者に対する行政処分

委員会報告・部会報告

次回開催日：第106回理事会 4月8日(水)

法制度検討委員会（都築委員長）

開催日時：2月20日(金) 15時～ 場所：協会会議室 出席委員：6名

議題及び内容：

● 来年度の開催日程調整について

令和8年度の委員会開催日程（年4回）について調整を行い、第1回を4月14日(火)に開催することを決定した。

● 来年度の議事内容について

業界の最新動向や会員の要望を踏まえ、令和8年度に重点的に取り組むべき4つの検討テーマを決定した。

次回開催日：4月14日(火) 15時～ 協会会議室

人材確保プロジェクト（二木リーダー）

開催日時：2月24日(火) 15時30分～ 場所：協会会議室 出席者：7名

議題及び内容：

● 令和8年度の取組について

- ① 会員企業の人事・採用担当者とのネットワークづくり
- ② 「若手社員のためのスーパーエコタウン研修会」及び「会員企業人事担当者と大学キャリアセンター担当者の意見交換会」の継続実施
- ③ 育成就労・特定技能制度等に関する情報提供

次回開催日：4月21日(火) 14時～

「外国人材の円滑な受入れについて」オンラインセミナー（第二弾予定）

終了後プロジェクト会議開催

建設汚泥・再生砕石分科会（隅田座長）

開催日時：2月27日(金) 15時～ 場所：協会会議室 出席委員：11名

議題及び内容：

● 再生砕石の滞留問題改善とDX推進に向けた取組について

再生砕石の滞留状況プラットフォーム構築。各社の滞留状況の見える化により問題解決に向けて進めていく。今後試行を行っていく。

● 再生骨材の現状と今後の展開について情報共有した。

次回開催日：5月29日(金) 15時～

青年部 幹事会 (島山 部長)

開催日時: 3月13日(金) 15時～ 場所: 協会会議室 出席者: 14名

議題及び内容

- 第14回青年部定時総会について
2026年度(令和8年度)事業の一環として、第14回青年部定時総会を2026年6月3日(水)に開催することを決定した。

次回開催日: 4月22日(水) 15時～ 協会会議室

女性部 幹事会 (望月 部長)

開催日時: 3月19日(木) 15時～ 場所: 協会会議室・オンライン 出席者: 9名

議題及び内容:

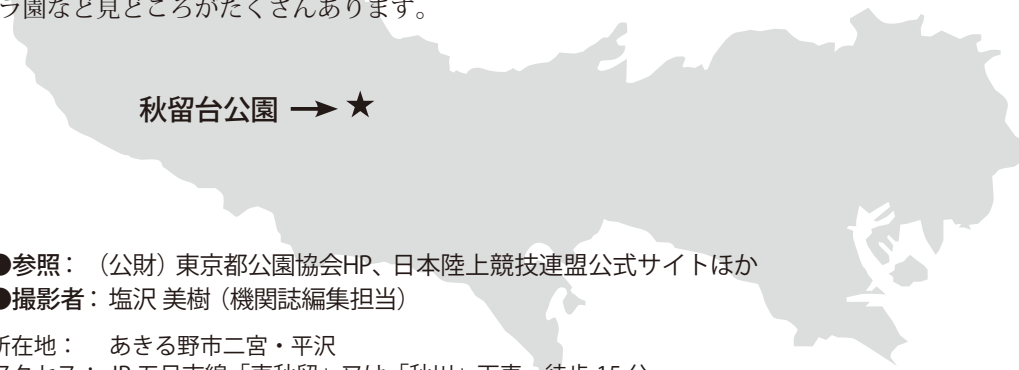
- 東京都環境局による講演会の開催について
3月30日(月)に東京都環境局と講演会を開催することが決定した。

次回開催日: 4月16日(木) 15時～ 協会会議室

表紙の言葉

●今月の写真: [防災公園] 秋留台公園 (あきる野市)

秋留台公園は、多摩川の支流、秋川と平井川の間ひろがる秋留台地のほぼ中央に位置し、奥多摩の連山を望むことができる自然環境に恵まれた公園です。
表紙写真は新緑のケヤキ並木に囲まれた全天候型第3種公認競技場です。第3種公認競技場とは日本陸上競技連盟公式サイトが定めた規格を満たす陸上競技場で、公式な大会や記録計測が可能とのこと。ほかにも、てっぺんに風向計を乗せたフォトジェニックな展望台やバラ園など見どころがたくさんあります。



秋留台公園 → ★

●参照: (公財)東京都公園協会HP、日本陸上競技連盟公式サイトほか
●撮影者: 塩沢 美樹 (機関誌編集担当)

所在地: あきる野市二宮・平沢
アクセス: JR五日市線「東秋留」又は「秋川」下車 徒歩15分

協 会 の 主 な 今 後 の 日 程

(令和8年4月8日現在)

月	日	曜日	行事予定	備考
5	12	火	三役会議 / 常任理事会 / 第107回理事会	協会会議室
	13	水	広報委員会 10:00～	協会会議室
	19	火	破碎・圧縮分科会 DX オンラインセミナー 15:00～17:00	協会会議室
	21	木	女性部 幹事会 15:00～	協会会議室
	26	火	全産連 ; 理事会	全産連会議室 Web (ハイブリッド)
			青年部 幹事会 15:00～ (Zoom 会議)	小会議室使用
	28	木	第14回 定時総会	ホテルニューオータニ (千代田区)
29	金	建設汚泥・再生砕石分科会 15:00～	協会会議室	
6	3	水	青年部 定時総会	外部会議室
			中和・脱水分科会 勉強会 15:00～	協会会議室
	10	水	広報委員会 10:00～	協会会議室
			新入会員と協会役員との懇談会 13:00～	協会会議室
			第108回 理事会 15:00～ (三役会議、常任理事会は開催なし)	協会会議室
	11	木	業界別人材確保強化事業 (カスタマイズ支援) 第一回人材確保セミナー 14:00～16:15	Fabbit 会議室 (千代田区)
	12	金	多摩支部 幹事会 13:15～/支部会 15:15～ /研修会 15:30～/懇親会 17:00～	たましん RISURU ホール (立川市)
	17	水	安全衛生推進委員会 15:00～	協会会議室
	19	金	全産連; 第16回 定時総会	明治記念会館 (港区)
	22	月	人材確保プロジェクト 14:00～	協会会議室
24	水	青年部 幹事会 15:00～	協会会議室	
25	木	収集運搬委員会 15:00～	協会会議室	

当社は1971年に設立し、関東圏を中心に一般廃棄物から特別管理産業廃棄物を含む産業廃棄物まで幅広い収集運搬を中心に事業を展開してきた。

2017年には親会社である株式会社市川環境ホールディングス（現：テラレムグループ株式会社）が設立され、グループ全体のシナジー効果を高めるためのホールディングス機能を担う体制が構築され、その中核企業として重要な役割を担っている。

グループ内ではプラスチックリサイクル施設、食品リサイクル施設、家電リサイクル施設などの各種リサイクル施設に加え、リチウムイオンバッテリーや蛍光灯の一般廃棄物処分施設を保有しており、収集運搬から処分まで、廃棄物の種類に応じた適正処理かつ高いリサイクル率を実現するリサイクルルートを構築している。また、グループ内で対応できないケースにおいては、同業者の協力を得ることで、より広いリサイクルルートを構築してきた。

近年は廃棄物を取り巻く社会環境が大きく変化している。気候変動に伴う豪雨・台風等の自然災害、リチウムイオンバッテリーなどに起因した火災による自治体の処理施設の受入停止、感染症流行による排出される廃棄物の変化に加え、法令遵守や適正処理の徹底、資源循環への寄与といった社会的責任も拡大している。

当社が保有する200台超の多種多様な収集運搬車両とグループ内外のリソースを組み合わせることで、柔軟性と安定性を兼ね備えたりサイクルルート確立し、自治体と連携したプラスチックの資源循環だけでなく、災害やトラブル発生時のバックアップ体制を提供するなど、地域社会の多様なニーズに対応してきた。

今後も、「資源とひとを未来につなぐ」という企業理念のもと、時代の変化に合わせた発想を取り入れるとともに、業界全体の事業者と協力して循環型社会の実現を目指していきたい。

(株式会社市川環境エンジニアリング
大屋 賢司 記)



収集運搬車両



RPF化プラント

Tea Break



インド旅行記③

～スリランカ編・トゥクトゥクとオイルとオイリーな髪～

第423号・424号に掲載したインド旅行記①・②の続きである。



インド・ムンバイ空港から乗り継ぎ、夜中にスリランカのコロンボ空港に到着した。夕方の帰国まで時間があつたため、翌朝9時頃、姪とホテル近辺をのんびり散歩することにした。

スリランカ人の顔立ちはインド人によく似ており、民族的にも重なり合う系統を持つようだ。街の店先は整然としていて、道路も意外ときれいである。布地店には原色の派手な布が並び、市場にはインドでは見かけなかった大小さまざまな魚の乾物があり、日本と似ていると思った。スリランカも日本と同じ島国だ。市場を歩き交う運搬用トラックは鮮やかにペイントされ、日本のデコトラとはまた違った派手さがあった。



有名な寺院の外観を撮影していると、トゥクトゥクのおじさんが声をかけてきた。撮影アングルを教えてくれたうえ、2時間この値段で観光に連れていくという。旅慣れている姪は「こういうのはぼったくられることが多い」と警戒したが、私はせっかくだからと誘いに乗ることにし、二人でトゥクトゥクに乗り込んだ。

おじさんはスリ・カレイシュワラム寺院やガンガラーマ寺院など、いくつもの名所を案内してくれた。寺院はいずれも色鮮やかで、豪華絢爛という言葉がぴったりだった。昼前にはすっかり疲れ、「どこか美味しいランチのお店に連れて行って」とお願いした。



街の風景



街中では様々なものがキレイに陳列されていた



日本によく似た乾物類



鮮やかにペイントされたトラック達



素晴らしいロケーションで絶品カレーを堪能

「いい場所があるよ!」と案内されたのは、海沿いを走る電車が見える少し高級なレストランだった。奮発してカニとロブスターのカレーを頼んだが、これが人生で一番おいしいカレーだった! 奮発して正解である。



実はインドでアーユルヴェーダを体験したかったが、叶わなかった。ジャイサルメールで出会った女性はアーユルヴェーダの国家資格保持者で、本来は1か月ほど滞在して生活全体を調整するものだと教えてくれた。しかし帰国まで数時間しかない。急いで店を探して事情を説明し、予約を入れ、おじさんにトゥクトゥクを飛ばしてもらった。

清潔な施設で先生の間診を受け(姪が通訳)、体質に合わせたオイルマッサージを受けることになった。先生も施術者も全員女性で、頭から足先まで一時間ほどかけ、二人がかりでマッサージしてくれる。とろけるような体験だった。

施術後はハーブティーと軽食をいただきながら説明を受けたが、髪は3時間そのままが良いという。ただ私たちはもう帰

国しなければならない。シャンプーせず流すだけなら1時間で良いとのことだったが、それでもホテルまで行ってここに戻ってきては時間が足りない。私たちは朝の散歩に出かけたままの状態だったのだ。

どうするか迷った末、ホテルに事情を話してシャワーを借りることにした。再びトゥクトゥクを飛ばす。ガソリンタンクが小さいため途中で止まり、そのたびにおじさんがペットボトルに入ったガソリンを補給する。

ホテルでは渋々シャワーを貸してくれたが、ホテル代金は現金払いを要求された。ところが現金はほとんど残っていない。慌ててまたトゥクトゥクを飛ばし、両替商へ向かう。手数料が高いが仕方がない。

何とかシャワーを済ませ、空港へ向かう前におじさんと清算する段になった。提示された金額は当初より高く、姪は納得しなかったが、交渉の末、折衷案で支払った。空港で改めて拘束時間を計算すると、実はおじさんの金額は妥当だったと分かり、二人して反省する。おじさん、ごめんね。そしてありがとう。

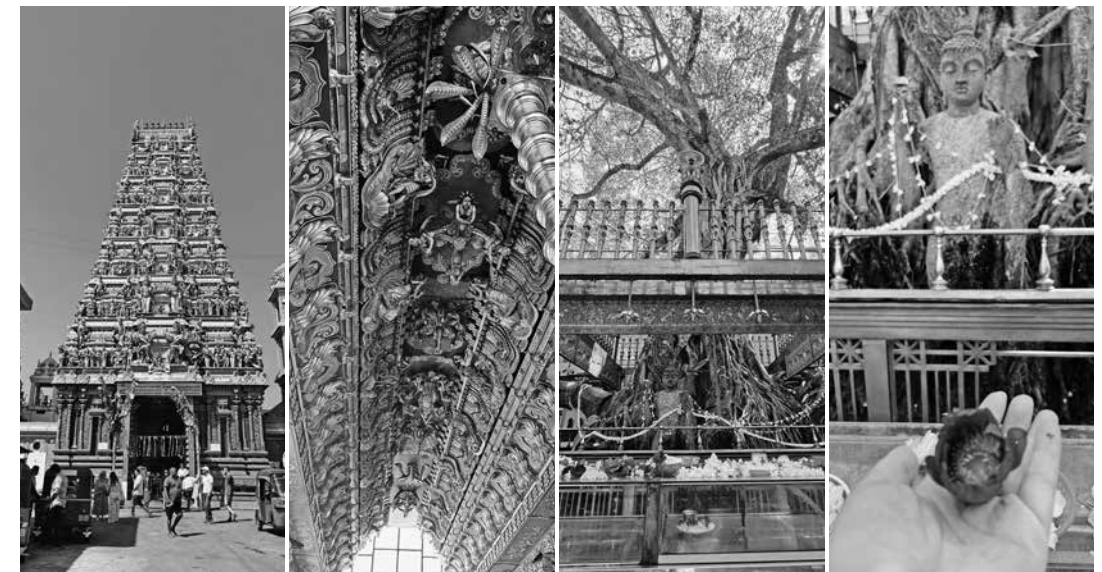


こうして私たちは、シャンプーしていないオイリーな髪のまま羽田へ向かった。しかもホテル代は、姪が予約時にクレジットカードで支払っていたことが後で判明し、二重払い。返金もされなかった。極めつけに、コロombo空港で飲んだ氷の入ったジュースで、二人そろってお腹を下す。

氷入りは禁止と決めていたのに、最後の最後に油断した。

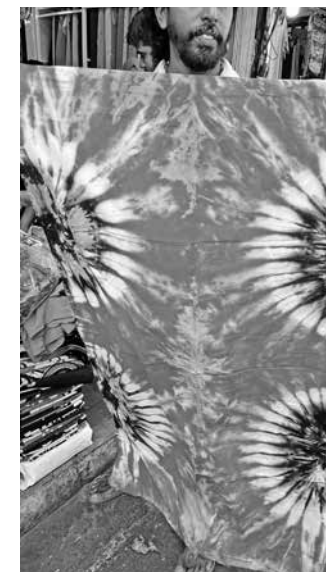


朝ののんびり散歩から一転、怒涛の展開。でもとっても楽しかった。まさに珍道中であった。(M)



装飾が鮮やかなスリ・カレイシュワラム寺院

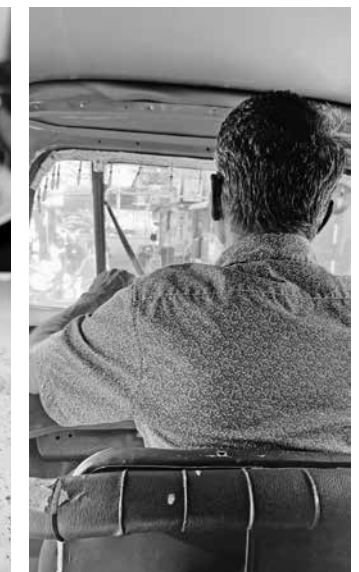
ガンガラーマ寺院の聖なる菩提樹に願いを込める



鮮やかな布で溢れている



ハーブティーと雑穀と野菜を包んだクレープのような軽食で整える



トゥクトゥクを飛ばすおじさんの背中

新緑が心地よい季節になりましたね。暖かくなると外に出るのが楽しくなり、私も時間を見つけて動物園に足を運ぶことがあります。動物たちを眺めていると、気持ちがふっと和らぎます。なかでもホッキョクグマは力強さと愛らしさが同居していて、つい長い時間見入ってしまいます。

そんなホッキョクグマですが、近年は地球温暖化の影響で生息環境が大きく変わりつつあります。北極の海水は彼らの生活の場であり、アザラシを捕まえるための大切な狩り場でもあります。しかし気温の上昇により海水が早く溶け、量も減ってきています。氷が少なくなると狩りが難しくなり、食べ物を十分に得られないこともあります。また、氷と氷の間が広がることで長い距離を泳がなければならず、大きな体力を消耗してしまいます。

こうした地球環境の変化は遠い北極の出来事のように思えますが、私たちの暮らしともつながっています。かつて歯磨き粉などに含まれていた小さなプラスチック粒のように、日常の製品が海へ流れ込み、環境に影響を与えてしまうこともありました。

だからこそ、資源を大切に使い、廃棄物を適切に処理し、できる限り資源として循環させていく取組が大切だと感じます。私たちが携わる産業廃棄物の適正処理や資源循環の仕事も、巡り巡って地球環境を守ることにつながっています。

動物園でホッキョクグマを見るたびに、「これからも北極で元気に暮らしてほしい」と自然に願う気持ちになります。日々の仕事や身近な取組も、きっと未来の環境へとつながっていくはずです。そんな思いを胸に、これからも一つひとつの取組を大切にしていきたいと思えます。

心地よい季節となり、皆様いかがお過ごしでしょうか。今号では、令和8年度東京都予算におけるリチウムイオン電池火災緊急対策事業や太陽光パネルリサイクル推進事業などの予算化をトップ記事としました。

また、一都三県建設混合廃棄物意見交換会では、DX推進や「建廃NAVI」の進捗状況が共有されました。多摩支部や医療廃棄物委員会では、施設見学会の報告や循環型社会の実現に向けた取組が議論されました。さらに、人材確保プロジェクトでは外国人材受入れに関するセミナーが開催され、業界の人材不足解消に向けた具体的な施策が提案されました。その他、青年部や女性部の活動報告など、盛り沢山となっています。

本誌では、前年よりカラー広告掲載を新たに始めました。また、各社の産業資源循環に関わる取組の紹介記事も会員限定で受け付けます。詳しくは、事務局へお尋ねください。

最後になりましたが、日頃より本誌をご愛読いただき、誠にありがとうございます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

(森)

とうきょうさんばい

第43巻第2号通巻第428号

令和8年5月1日発行

発行人
企画・編集
発行

鈴木宏和
広報委員会
一般社団法人 東京都産業資源循環協会

〒101-0047 東京都千代田区内神田1-9-13 柿沼ビル7F
TEL 03(5283)5455(代表) FAX 03(5283)5592
https://tosankyo.or.jp E-mail:info@tosankyo.or.jp



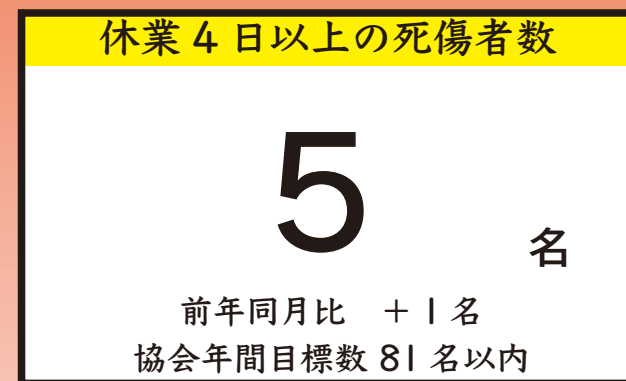
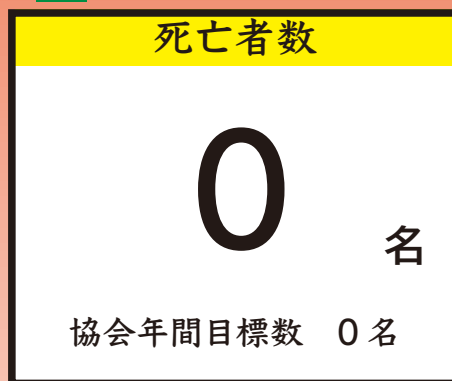
身近な

ヒヤリ・ハット事例

Part 201



東京労働局管内の産業廃棄物業種における労働災害発生状況(令和8年1月~1月累計)




出所：厚生労働省 職場のあんぜんサイトより、労働災害事例→ヒヤリハット事例集
労働災害統計→労働災害発生速報値、「死亡災害報告」による死亡災害発生状況、「労働者死傷病報告」による死傷災害発生状況

ヒヤリ・ハット事例

工場内ヤードにて車両から廃棄物の荷降ろし中に、車両運転手が待機場所から重機の作業範囲内に近付いてきて、重機オペレーターがヒヤッとしました。

類似事例1	類似事例2
<p>バックホーでコンクリート製U字溝を吊り上げて動かした時、既に移動したU字溝に接触し、近くにいた作業員の足元に落下した</p>	<p>埋立用廃棄物保管場で清掃中に、後進してきたトラクター・ショベルに激突されそうになった。</p>

※ QRコードが隣接しているため、片方を手や紙などで隠していただくと読み取りやすくなります
出典：厚生労働省 職場のあんぜんサイト「労働災害事例集」「ヒヤリハット事例集」より
類似事例のイラストは同サイトの画像をもとに当協会にて加工して作成
https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen/sai/sai_new241220.html またはコチラ→



第5回 安全衛生標語コンクール 佳作 受賞作品

上手さより安全に スピードより確実に
心と体にゆとりを持って

令和8年度

産業廃棄物処理実務者研修会

前期開催日程

いつでも・どこでも
職場や自宅、
好きな時間に
自分の
ペースで!



	開催日	申込
第1期	5月3日～28日	4月1日～21日
第2期	6月3日～28日	5月1日～21日
第3期	7月3日～28日	6月1日～22日
第4期	8月3日～28日	7月1日～21日

カリキュラム
(全4講座)

① 産業廃棄物処理の基礎 (第1章～第8章)	第1章 循環型社会推進の法体系および廃棄物処理法の構成 第2章 廃棄物処理法の目的と産業廃棄物の種類 第3章 排出事業者の責務 第4章 産業廃棄物の保管および処理に関する主な基準 第5章 特別管理産業廃棄物の保管および処理に関する主な基準 第6章 産業廃棄物処理業 第7章 産業廃棄物処理施設 第8章 行政処分
② 産業廃棄物の委託処理と委託契約	産業廃棄物の委託処理と委託契約
③ 産業廃棄物管理票(マニフェスト)	産業廃棄物管理票(マニフェスト) ※マニフェストの記入方法
④ 帳簿	帳簿

1 研修会の目的

産業廃棄物を取り扱う方々(排出事業者含む)の実務に必要な幅広い知識の習得と再確認。

2 受講料 1名につき 8,250円

税込、通信料は利用者負担

※産業廃棄物処理の基礎知識をわかりやすく解説した「産業廃棄物処理実務者研修会テキスト」も別途販売しています。



3 申込方法

専用のポータルサイトより受付

全産連 研修会

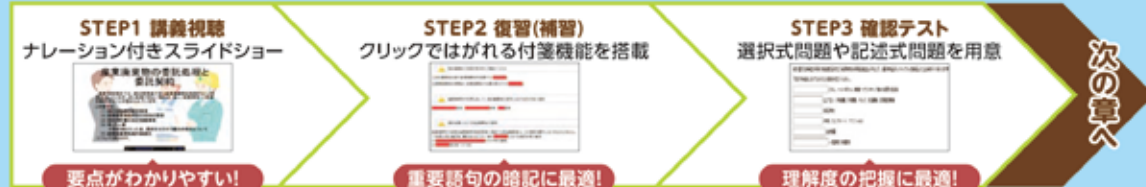
<https://www.zensanpairen.or.jp/application/seminar/>

検索

各章の構成

個人学習に最適な「復習(補習)」や「確認テスト」がメインの研修会です!

※各章ごとに、STEP1～STEP3 で構成



公益社団法人
全国産業資源循環連合会
〒106-0032 東京都港区六本木3-1-17 第2ABビル4階

お問い合わせ先
公益社団法人全国産業資源循環連合会 事業部 実務者研修会担当
[E-mail] ability-as@zensanpairen.or.jp
[営業時間] 月～金 9:00～17:00 【定休日】 土日・祝日 2026.03

創業65年、人々が安心して生活できる
安全で快適な環境づくりに貢献します



練馬の大地

おいしい作物は元気な土づくりから...
弊社の資源リサイクルセンターにて学校給食残さをリサイクルし、良質の土壌改良材を精製しております。

- | | |
|--------------|-------------|
| 廃棄物処理 | 警備 |
| ◆一般廃棄物収集運搬 | ◆施設警備 |
| ◆産業廃棄物収集運搬 | ◆駐車場管理 |
| ◆医療系廃棄物 | ◆交通・雑踏警備 |
| ◆資源リサイクル | |
| 建物清掃 | 環境衛生 |
| ◆日常清掃 | ◆空気環境測定 |
| ◆定期清掃 | ◆水質検査 |
| ◆浄化槽・貯水槽清掃 | ◆害虫駆除 |



総合ビルメンテナンス
株式会社 五十嵐商会

【本社】 〒177-0032 東京都練馬区谷原6-24-8 TEL03(3922)7547 FAX03(3978)1533

<http://www.igarashisyukai.co.jp>

五十嵐商会

検索

PCBの処理期限までの全量廃棄を目指します PCBに関するあらゆる問題をワンストップで解決していきます

全数調査

選別調査

分析・運搬業務

申請サポート



解体や全数調査時に新たにPCB廃棄物が見つかる事例があります。
調査漏れが不安な方はお気軽にご相談ください。

北九州事業エリアで
処分期間後に発見された
高濃度PCB廃棄物
196件
(令和2年10月末現在)

環境省 <http://www.env.go.jp/recycle/poly/confs/tekisei/28pcb.html>

KATO 加藤商事株式会社
<http://www.katosyoji.tokyo>

未来の地球に持続可能な環境を創る企業

本社 〒189-0011 東京都東村山市恩多町1-12-3
TEL: 042-392-1001 FAX: 042-394-1453
赤坂営業所 〒107-0052 東京都港区赤坂4-4-14 未来環境創造ビル1F
TEL: 03-6277-7187 FAX: 03-6277-7197

一般社団法人日本PCB
全量廃棄促進協会 (JPTA) JPTA
ea
2019年度 環境省
産廃エキスパート
認定番号 5-19-00038